

雜 錄

● 女子高等師範學校彙報

▲英語臨時教育養成所志願者 同所は豫て入學志願者募集中なりしが去る廿日の願書提出締切迄に差出したる志願者数は七十四名にして、去る廿四日より引續き三日間入學試験執行せられ目下詮考中なりと云ふ

▲同校々友會の遠足 去る五月十二日同校生徒四百名は職員數十名に引牽せられて房州鹽田浦に遠足せり。

同日午前五時校門を出發し兩國より別仕立の列車にて三時間の後三門驛に下車し夫より鹽田の浦なる海濱にて一日の清遊を試み午后二時五十分大原

驛より乗車して歸校せり。當日房總鐵道會社は鹽田浦に於て地引網を二ヶ所に引かして興を助けられたり。又往復共列車の千葉縣女子師範學校傍をかすめつゝ、通るためには該校の職員中に態々停車場迄出迎はるゝあり、生徒は手々に窓より手巾など打ち振りて歡迎の意を表されたり。斯て全く歸校せるは日暮るゝ頃なりき。

● 丙午と婦人 今年は丙午だから大地震あるだらうなぞと云ふ中に今にもあるかの様に慌はてゝまでも騒いだ地震は洋行して亞米利加で大搖れに揺れてしまつたが近日は地方にも東京にも大火が頻々として起るので丙午の年に碌な事はありはしないとヤキモキする御幣擔ぎも尠くないぞをだ。甚だしきは此頃亞米利加杯でも氣の早い連中は日本の此言ひ傳へを何か根據でもありはせぬかと研究

し出したものもあるそをだ。殊に又丙午に生れた女は夫を食ひ殺すと云ふことを云ひ振らすものがあり、又之を信じて居るものもあると云ふに至つては、沙汰の限りであると云はなければならぬ。其證據には弘化三年の丙午に生れた貴婦人である左の人々を見れば思ひ半ばに過ぐるだらう

▲松村銀行頭取夫人菊子 ▲石黒軍醫總監夫人くが子 ▲土屋陸軍中將夫人兼子 ▲星野文學博士夫人さん子 ▲土屋爵夫人與志子 ▲加藤文學博士夫人壽々子 ▲前田子爵夫人祉子 ▲鈴木貴族院議員夫人菊子 ▲立見陸軍中將夫人みの子

右の婦人は何れも夫婦共健康でそして極めて運の善い方々である又岩崎彌太郎氏の夫人喜世子も弘化三年二月の生れ醫學博士緒方正規氏の母堂も同じ四月の生れだそうな

●結婚調査所 物質的文明が進み、世の便利が進むに従つて彼も便利最も便利とマア便利なもの、殖た事と云つたら非常なものです、遂に見出し

の様なもの迄出来ました。是は對手の身元を調べぬ爲めに、縁組して後思はぬ不幸な目に遇つたり又商買の取引に相手方の資産や信用を熟知せぬ爲め、後で大變な損耗をする事などが往々あるのを防がん爲めだと云ふので、依頼者の需に應じて結婚及び取引の相手方の身元に付き、秘密に詳細に明確に調査をするのが目的だそうだ。そして其調査の報酬は結婚は十圓より二十圓迄、取引は三圓より十圓迄、商會店員等品行の内偵は三圓より七圓までと定めてあるそをだ。(場所は京橋區南八丁堀三の八)

●矯風調査 徳島縣教育會にては左記の事項を原

案とし、之が實行方法及補充すべき事項及其方法を調査すといふ。

▲社會に於て矯正すべき事項

- 一 時刻を確守すること
- 一 大陽曆を大陰曆に附加するを止め大陰曆を用ひざることを
- 一 婚姻葬儀祭典等は華美上虚飾に流れず質素に爲さしむること
- 一 善妾の風を斷たしむること
- 一 醜業を營む者を一層嚴重に取締ること
- 一 演劇場寄席者を取締ること
- 一 盆踊を廢止すること
- 一 新板書籍、新聞雜誌の取締に關すること
- 一 卑猥の音曲歌詞の取締に關すること
- 一 船車中の乗客の心得方に關すること

一 公共物を粗略に取扱はざること

一 祝日祭日を重んぜしむること

一 迷信を止むること

▲家庭に於て矯正すべき事項

- 一 兒童に卑猥なる小説を讀ましめざること
- 一 兒童を芝居見物に伴はざること
- 一 兒童教育を學校に一任する弊を矯むること
- 一 共同的娛樂の趣味を獎勵すること
- ▲學校に於て矯正すべき事項
- 一 學生の出入する文房具店等の弊を矯むること
- 一 學生家庭の事情を詳知し個人的訓育の資料に供すること
- 一 學生間に於て正常なる制裁力を養成すること
- 一 寄宿舎に於て趣味の養成に注意すること
- 一 學生服は絹布を禁ずること

一頸巻を廢すること

●愛國婦人會の光榮 愛國婦人會が今回の臨時大

勅祭に際し委員を助けて參拜遺族の接待に努めし

に付野津委員長より長き邊りへ奏上に及ばれし處

特別の御思召により同會々長以下評議員幹事、支

部長等六百餘名に對し九日赤坂、濱兩離宮の拜觀

を許させられたり尙ほ來二十日開催の同會大會

場所として新宿御苑拜借御許可相成たりと

●感ず可き亡夫人 工學士菅原恒賢氏夫人祐子は

去月五日逝去せるが、遺族に遺言して、各所の公

共慈善の團體に、一千五百圓を寄附したり。其内

譯は金五十圓聖書學院、金五十圓鎌倉腰越育兒院

金百圓四谷小學校、金百圓四谷區教育基金、金百

圓淀橋小學校、金一千圓岩手縣一の關瑞川寺、金

百圓明治女學校の由なり明治女學校は同夫人の母

校なる由、在校中の德育流石に仇ならずと云ふ可

きか。其菅原氏に嫁するや、能く舅姑に孝養をつ

くし、是迄の見得も姿も振り棄て、専ら家事の

整理に努め、其間月々良人より與へらるゝ二百圓

宛の金子を節約し、他に臨時の收入をも合せ貯蓄

し、或る額に達するを俟て、豫て理想の小學校を

創立して公益を計らんと、开を樂みに頗る熱心に

蓄積せしかば、却つて他より兎角の非難を買ふこ

と抔あり、斯くて十餘年間の辛苦を経て漸く多額

の金圓を準備し得たれば、愈よ事業創立に着手せ

んとせる折しも、好事總て魔多しとか、豫て兆せ

る腦病革まり數年來病褥に呻吟の不幸に陥れり、

されど一日も早く平癒して夙志を果さんと、日夜

それのみ苦しめしが、不幸にも三男達也(一)は去

三月四日死亡せしかば、最愛の兒を亡ひ悲哀の感

に打れて、病勢いや増して悪しく、良人と三兒を跡に殘して、此世を辭し去りぬ。斯くて學校設立の目的のため、蓄積せし多額の金は、祐子が遺産として、其の生前の意志に叶ふ方法に使用すべく、目下良人に於て考究中の由にて、此處遺言に依り寄附せし千五百圓は遺産以外別途の支出なりと、最も感すべき話ならずや。

●お伽演劇 近來兒童を樂ましむる趣意にて種々の會合行はるゝに至りたるが、婦女新聞社にては其の六週年の紀念として左の通お伽演劇を催せりとす。

- 一、脚本 久留島武彦氏新作「蛙三の笛」  
故尾崎紅葉山人作「非常報知」
- 一、劇場 本郷座
- 一、俳優 藤澤淺二郎高田實一座
- 一、時日 五月十七、十八、十九日午後四時開場

●横濱保育研究會 横濱市在住の保母諸姉及有志者相集まり、今回標題の如き團體を組織し、去る四月廿八日其發會式を舉行し、女子高等師範附屬幼稚園主事村五六並に教授東基吉の兩氏及び牧野清子の演說あり、出席者百數十名にして頗る盛會なりしと云ふ。而して出席者の大部分が幼兒保育熱心の有志婦人なる由を聞くに至つては斯業のため快心の事と叫ばざるを得ず。吾人は該會の永く益々盛ならんことを望む。

●私立幼稚園の出征軍人幼兒保育 別項にも載するが如く、私立福岡幼稚園主萩野ヒサ子は戰役の起ると共に出征軍人の幼兒に限り、保育料を免除して入園を奨勵し、遺族を救ふの一端とせしが中には往々衣服其他の需用品に乏しくして退園するもの多きを見て、遂に右等需用品の給與方法を

けいやく、百万奔走して、同地の有力者有志者の賛助を得、或は遺族の救助、或は幼児の收容に努めたる結果、同年七月には三十三名の幼児を收容し、今日に至る迄全く獨力を以て之を繼續せられしが、今回同地の重なる人々評議員となり、婦人會その他の公共的団体も一致して之を助け永く之を繼續することに決したりと云ふ。吾人は誠意を以て該園主荻野ヒサ子氏の忍耐成功の勞を謝するものなり。

### 私立福岡幼稚園の經過

左の書簡は該園主任保母より客員東教授に宛て報じ越したるものなり参考となる可き節もあれば本誌に載録せり

當園は明治三十六年九月、福岡市の中央なる或る寺院を借り受け不完全ながら諸種の設備を爲して創立致し、先づ百二十名の幼児を募集し、該月十日開園致しましたが、開園當日已に満員いたしました。然して猶其後も續々と入園申込者が多くて謝絶するに困りましたか、保育の任に當るものから見ますと、是非謝絶せねばならぬために、一時は定員外の入園を拒絶致しました處が、拒絶され

た父兄の感情より少しく事業の發達を妨げらるゝ傾向が出来て來ましたから、準備を増設して、又三十名を募りました、是非満員しまして、猶續々と入園を申込むものが有りましたから、遂に百七十名迄入園させました、扱、創立の際いまだ秩序が立て居ないに、御承知の通り自分の名さへ知らぬ幼児を、百七十名と云ふ多數迄、入園せしめ、保母は如何にと云ふに、實に名ばかりの保母にして、保育と云ふ六ヶ敷事は知らぬ私が、覺束なく主任として有り、外に雇ひ入れしは休職小學教員と、全く經驗なき助手二名と、都合四人にて、保育を仕様と云ふ、最も大膽な、最も危險な組織でありますから、其困難は實に非常なものであります、實際保母自身が、満足な保育を爲したと思ふ日は、一日もありませんでした、只助手の人々に、起業の易くて成功の難きを諭し、熱心と忍耐とを以て、研究に研究を積み、慈母の心得を以て、任に當られよと、先生の御著書等與へ保母及助手を監督し、中心に立つて責任を負つて居ましたが、中々甘く行きません。種々苦心の實際事業が起つたものですから、教育家の方面から參觀に來られますし、保育熱心の家庭からも見に来る、而して此等の人は、私等の事業がまだ乳臭き赤んぼうであると云ふ事は措きて、完全なる理想に照して批評せられ、甚しきは中傷的惡評迄送らるゝ方もありました。茲に至て上流の家庭にては漸次退園者も出来る様になり、教育者に於くも余り必要で無い様な説が出て來ました。素より創立者及び主任保母に於ては、當地保育の有様に就き感ずる處有て、永年の宿望を成立させた今日故、多少の攻撃は、起業者の良藥として受けて居る位の有様で、覺悟の上でありますから、怪

しみせず、只其悪評の起りたる原因を改むべきに勉むるに如かざるを知り、茲に規模を縮少し、外に一園を設くべき必要を感じ乃ち翌年避暑休暇中、園長は博多なる二三の有志家に計りたるに、大に賛同せられました。博多は御承知の通り商業地にして全市舉て商家ばかりなれば金銭の纏り附易い方でありませぬ。此等二三の有志家は非常な熱誠を以て盡力致されまして。忽ち博多婦人會なるものを起されまして、一方には有力家に寄附を募られました。其結果翌三十八年三月博多幼稚園と云ふ名稱の下に成立致しました。此成立と同時に我幼稚園は少しく市の西方に位置を變更し博多部幼児を悉く博多幼稚園に入園せしめ。創立當初より猶私方より園主と園長を兼ね居ましたが、幸に博多幼稚園は二三の有力なる熱心家が世話をしてくれませぬから、本年四月私方は辭職いたしました。後任には同地等々小學校校長兼務して盡力して居られます。

福岡幼稚園にては事局中別紙報告書の通り、出征軍人の家計困難なる家庭の幼児を保育しましたが、是れは時がよいのと、一方に其父が忠誠なる働をして居るので、非常に一般の人より厚遇を受けまして、本年四月よりは市有大建物を市尙武會より貸與せられ、市内各學校には引續き評議員として盡力され、愛國婦人會より補助金を得る様になりまして、正確に經續する事を得る様になりました。左に經過の略表を御一覽に供します。

當市保育發達の略表

創立年月	私立福岡幼稚園	私立博多幼稚園	私立福岡市軍人 幼児保育所
明治三十六年九月	全三十八年三月	全三十八年五月	公然成立
年 度	在席幼兒數	全	全
三十六年度	百七十名	全	全
三十七年度	百五十名	全	全
三十八年度	七十名	百二十名	全
現 在	七十名	百 名	全
	現時當縣下保育の發達	百 名	全
		二十七日	全
		三十二名	全
		二十七名	全

私等が幼稚園創立の當時は、前に述べました様に教育者中の多くは、不必要と認められて居ましたが、是れは全く其當時私等の幼稚園の組織及保育の方法を誤て居たもので、ツマリ我幼稚園より不必要と云ふ感じを與へたもの、様に思ひます。今日では一般に保育志想が進まして教育者側にも稍必要と唱へられる様になりました。目下郡部に於て新設計畫中の者が二ヶ所已に新築に着手し開園して居る者が一ヶ所、猶炭礦地方にては礦主の家等にて家庭保姆の要求をせられて居る等、實に將來有望な有様であります。目下計畫中のものにて最正確なるものは縣下久留米市にして實に正確強固なる組織であります。それは同地にて有名なる星野房子女史が非常な熱誠もて盡力されて居ます。然して同地教育會に於て計畫中でありませぬが、女史は創立費の全部と保姆養成に關する學資及漸次維持費をも支出せられる事となつて居るかの様に聞いて居ります。

又大牟田なる炭礦地にては、目下建築中で有つて、設備しつゝ開園はされて居る由、今は幼兒二十七名にて猶募集中と當園へ通知

が有りました。

以上の發達は斯業の爲め實に悦ばしい次第であります。良保母養成の方法が、極々必要な急務と思ひます。是れは是非先生方に御計畫をお願ひ申します。私今日に至て常に考へて居ります。此發達は實に悦ばしい。然し保育の進歩を計るべく一般家庭の慈母の保育志想を養成すべき方法を設け、(何々會)一方には確實強固なる財源を作るべく勉め、以て斯業を永遠に維持し、増々隆盛ならしめん望んであります。中々私立と云ふは、困難なもので、世の進歩に伴ふて時運を待つのみであります。

申上る必要もなき様で御座いますが、實に私の幼稚園は設備不完全で、一見物置然として居ます。是れとても仕方が御座いませぬ七十名の幼児の保育料で維持して居ますのですから。而して借家料を出して有給助手を使ひ、小使を使ひ、保育料は三十錢と、(所得税金を納むる生徒の家が)六十錢の保育料で、貧民は保育料免除、二人在園の弟は半額と云ふ取り方、(是れは少し考へが有つて)寄附は一切現品の外受けず、全く獨力資を投じて、今日迄維持して居ますから、誠に困難である代りに、非常に愉快である場合も有ります。是れに昨年は軍人幼児を保育しましたから、其節は實に身心共に勞れた覺ゆる程、困難いたしました。しかし今日の結果を得て、昨年今日の困難より以上の愉快で有ります。價値なき文句を書連れ甚失禮いたしました。先は日頃の御引立に依り三年間の結果を述べて聊か御盡力に酬ゆる志を御讀み下さいませ

私立福岡幼稚園主任保母

福岡市軍人幼児保育所創立者

同主幹 萩野ヒサ

五月八日

猶熱誠もて斯業の爲め盡さん考へに御座候得ば何卒御見棄なく御引立被下度願上候

東基吉先生玉机下

▲日本帝國の富力と其の一人當り 明治三十五年より同三十七年迄の材料に依り或筋にて調査せし本邦の富の總額及び其一人當りは左の如しと云ふ

土地	六、〇二三、七七一、〇〇〇
建物	一、九六二、三六三、〇〇〇
家財	九七六、三〇〇、〇〇〇
鐵道	二八三、一二七、〇〇〇
商品	二八九、八五五、〇〇〇
地金屬	五八、五七八、〇〇〇
雜種	三、四二六、八一三、〇〇〇
合計	一三、六五〇、八〇七、〇〇〇
一人當國富	二九〇、四三五